

参考資料1 検討委員会での検討経緯

北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会

委員名簿（平成16年12月現在 50音順）

- 委員長 石田 東生 筑波大学大学院教授
 委員 石山 醇 （社）日本旅行業協会理事・事務局長
 稲村 健蔵 （社）北海道観光連盟副会長
 臼井 純子 （株）富士通総研取締役 P P P 推進室室長
 高野 伸栄 北海道大学大学院工学研究科助教授
 東村 有三 C.S.P.T 地域計画機構代表取締役
 前田 博 京都造形芸術大学芸術学部教授
 麦屋 弥生 フリープランナー（前（財）日本交通公社地域調査室室長）

委員会開催状況

第1回委員会

日時：平成15年2月17日 16:00～18:00

場所：国土交通省北海道局会議室

議題 (1)委員会の設立趣旨

(2)北海道におけるシーニックバイウェイ制度の導入について

(3)検討内容（案）及びスケジュール

(4)米国シーニックバイウェイ制度の概要

決定事項

- ・「北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会」が発足

第2回委員会

日時：平成15年4月22日 13:30～15:30

場所：国土交通省北海道局会議室

議題 (1)北海道シーニックバイウェイ制度の理念について

(2)モデルルートの選定について

(3)活動団体の募集及び評価方法について

(4)広報、プロモーションについて

決定事項

- ・制度に反映する課題や対策を検討するため2年間の試行期間を設け、2つのモデルルート（千歳～ニセコ、旭川～占冠）で検討を行うことを確認
- ・活動団体の募集期間（平成15年5月6日～6月10日）

第3回委員会

日時：平成15年7月2日 10:00～12:00

場所：北海道開発局共用会議室

議題 (1)活動団体の応募結果及び認定について

(2)今後の制度設計に向けた評価について

決定事項

- ・活動団体32団体を認定（千歳ニセコ19団体 旭川占冠13団体）

その他

- ・同日午後より「クランクインフォーラム」を開催

- ・翌日、委員千歳～ニセコルート現地視察

第4回委員会

日時：平成16年1月20日 15:00～17:00

場所：国土交通省共用会議室

- 議題 (1)これまでの検討結果と今後のスケジュール
(2)これまでの活動を踏まえた制度設計上の課題
(3)H16追加団体の募集方法について

決定事項

- ・追加活動団体募集期間(平成16年1月21日～4月20日)

その他

- ・募集期間終了後、各委員に持ち回りで追加団体の認定(5月18日最終確認)
(千歳～ニセコ 2団体 旭川～占冠 4団体)

第5回委員会

日時：平成16年5月31日 12:30～13:30

場所：札幌コンベンションセンター

- 議題 (1)平成16年度の新規活動団体の紹介
(2)委員会の最終報告書のイメージについて
(3)シーニックバイウェイ制度設計の考え方、骨子について
(4)制度名称の決定方法について

決定事項

- ・制度設計の基本的考え方等

その他

- ・同日同所で「シーニックバイウェイ北海道フォーラム2ndステージ」開催

第6回委員会

日時：平成16年10月18日 18:30～20:30

場所：国土交通省北海道局会議室

- 議題 (1)本格実施までの検討の流れについて
(2)検討委員会報告書の骨子イメージについて
(3)制度素案の意見募集について
(4)制度の名称について

決定事項

- ・報告書骨子イメージ
- ・意見募集の件
- ・制度の名称の件

意見募集

募集期間：平成16年10月27日(水)～同年11月17日(水)(22日間)

寄せられた意見の数：16通

第7回委員会

日時：平成16年12月6日 15:00～17:00

場所：国土交通省北海道局会議室

- 議題 (1)シーニックバイウェイ北海道制度素案の意見募集結果について
(2)検討委員会報告書について
(3)シーニックバイウェイ北海道推進協議会の設置準備状況等について

参考資料2 主な広報・普及活動状況

イベント・フォーラム等

シーニックバイウェイ北海道 クランクインフォーラム開催

日時：平成 15 年 7 月 2 日

場所：札幌グランドホテル

旅フェア 2 0 0 4 にブース出展

日時：平成 16 年 4 月 16 ~ 18 日

場所：名古屋ドーム

シーニックバイウェイ北海道フォーラム 2 n d ステージ

日時：平成 16 年 5 月 31 日

場所：札幌コンベンションセンター

シーニックバイウェイ北海道集中活動月間

日時：平成 16 年 9 月 4 日 ~ 10 月 3 日

場所：千歳 ~ ニセコルート、旭川 ~ 占冠ルート

“観光振興と道路”シンポジウム

日時：平成 16 年 9 月 17 日

場所：福岡ファッションビル

このほか、パネル展示、講演など多数。

講演等

シーニックバイウェイ講演会

主催：(仮称)シーニックバイウェイ研究会

場所：ニセコいこいの村会議室

日時：平成 14 年 6 月 29 日

シーニックバイウェイ講演会

主催：ニセコ再発見の会WAO・共和町商工会青年部

日時：平成 15 年 10 月 28 日

場所：倶知安町産業センター

「土木の日」記念シンポジウム

主催：土木学会北海道支部

日時：平成 15 年 11 月 18 日

場所：札幌市

シーニックバイウェイ講演会

主催：斜里町ウトロ地区再開発協議会

日時：平成 15 年 11 月 28 日

場所：知床グランドホテル

第1回シーニックバイウェイ講演会

主催：21世紀まちづくり実行委員会・株式会社ニセコ観光協会・ニセコ町商工会

日時：平成15年12月6日

場所：倶知安町産業センター

シーニックバイウェイ講演会

主催：鹿追町商工会

日時：平成16年3月13日

場所：鹿追町民ホール

ランドスケープセミナー2004「新しい景観施策の動向」

主催：(社)ランドスケープコンサルタンツ協会北海道支部

日時：平成16年3月23日(火) 14:00~16:30

場所：札幌エルプラザ

シーニックバイウェイ講演会

主催：函館21の会

日時：平成16年4月13日

場所：函館市

景観デザイン研究会

日時：平成16年6月12日

場所：後楽園ホテル

旭川占冠ルート ワークショップ

日時：平成16年6月23日

場所：富良野市

千歳ニセコルート 景観分科会

日時：平成16年6月30日

場所：喜茂別町

道路空間高度化機構 研究会

日時：平成16年7月13日

場所：財団法人 道路空間高度化機構

道路ふれあい月間パネルディスカッション

主催：釧路開発建設部

日時：平成16年8月20日

場所：中標津町

みどり会議21

日時：平成16年8月26日

場所：北方圏センター

平成16年度 第1回美しい景観のくにつくり担当官会議

主催：北海道

日時：平成16年9月7日

場所：かでの2・7

道南シーニックバイウェイ研究会

日時：平成 16 年 9 月 16 日

場所：函館市

寄稿等（掲載順）

「北海道におけるシーニックバイウェイ制度の導入」道路 2003 年 5 月号

「シーニックバイウェイ北海道 - まるで映画のワンシーンのように心に深い道がある」開発
こうほう 2003 年 7 月号

「「シーニックバイウェイ北海道」と地域づくり活動」建設オピニオン 平成 15 年 10 月号

「美しい感動に出逢う道 シーニックバイウェイ HOKKAIDO ~ 平成 15 年度までの取り組みと
道路事業での展開 ~」開発こうほう 2003 年 12 月号

「シーニックバイウェイ北海道」の取り組み」人と国土 21 2004 年 3 月号

「座談会シーニックバイウェイが創る新しい北海道観光」観光会議ほっかいどう 12 号 2004
年・夏号

「シーニックバイウェイ 北海道における取り組み」交通工学 2004 5、Vol.39

参考資料3 ルート運営活動計画のイメージ

1. ルートの対象とするエリア / 関係市町村

(1) 主要路線

国道***号線(市**交差点~xx村***)から

道道***号線(xx村*** ~ 町***交差点)までの***km

(2) 関係市町村

市、 町、 xx村

2. 当該ルートの愛称

地域特性や旅行者への浸透を念頭に以下の愛称とすることとした。

「***シーニックバイウェイ」

3. 当該ルートにおける景観特性および地域資源特性

(1) 対象地域における景観特性

国道***号線沿線は、緑豊かな自然景観、xx村においては、果樹園の広がる田園風景、町では海岸線・水平線が美しい変化に富んだ景観特性を有している。

【優れた景観資源】

- ・ 国道***号線から見える***山の稜線や国内でも屈指の透明度を誇る***湖などは**国立公園に指定され、四季折々に美しい風景の中心となっている。
- ・ xx村の丘陵地帯には、北海道の農村アメニティコンクールで優秀賞を受賞したリンゴ等果樹園やじゃがいも畑などの田園風景が広がっている。
- ・ 町付近の道道***号線沿線の奇岩等の海岸線や水平線の夕景が美しく、国定公園にも指定されている。

(2) 対象地域における地域資源特性

市は、古くから***山などの森林資源を基調とした優れた自然資源を有している。近年では、団体旅行から個人・小グループ旅行へと旅行形態の変化や環境志向・体験志向の高まりにあわせて、自然体験などのテーマ性を活かした観光が顕在化しつつある。

4. 当該ルートにおける活動の現状

市には古くから温泉観光協会があり温泉街の清掃活動を行ったり、植栽を行ったりしている。また、近年では旅行者に自然を体験させることによって、環境教育を行おうとするNPO法人も活動している。また、市町村の任意団体が地域連携を模索しているところである。

5. ルートの基本方針

(1) テーマ

自然景観から海岸線へのストーリー性を考慮して、以下のテーマを設定した。

新緑と紺碧が織りなす * * * * シーニックバイウェイ

(2) 景観形成のための活動

自然景観の活用	景勝地の再発見や阻害要因の撤去を行う
情緒ある温泉街の創出	景観ルールの制定によって情緒あふれる温泉街を創出する
花による沿道の演出	ルートのテーマにあった植栽デザインを考案し、住民の参加による沿道を植栽で演出する
...	...

(3) 地域活性化のための活動

情報発信の充実	道の駅や観光案内所の情報を充実させるとともに、情報発信人(案内人)の常設によって、地域性のある情報発信を行う
地域の連携	市、町、××村が連携した * * * 活動やキャンペーンなどによって、地域が連携し一帯となった活動を通して、連携意識を高めるとともに、パブリシティなどのPR効果を高める。
ホスピタリティの向上	情報発信人の育成や景観形成・まちづくりの講習会などを通じて、住民全てが旅行者に対するホスピタリティを向上する
...	...

6. 当該ルート運営に関する事項

(1) ルート運営に関わる活動団体

市温泉観光協会、NPO法人 自然体験機構、××村商工会青年部、* * * * 地方地域振興協議会

(2) 代表者会議 「* * * * シーニックバイウェイ代表者会議」

代表者 市温泉観光協会 会長 ×× (市 * * * TEL** -****)

事務局 NPO法人 自然体験機構 事務局 (町 * * * TEL** -****)

その他活動団体が連携するために、「沿道植栽」「情報発信」分科会を設置。